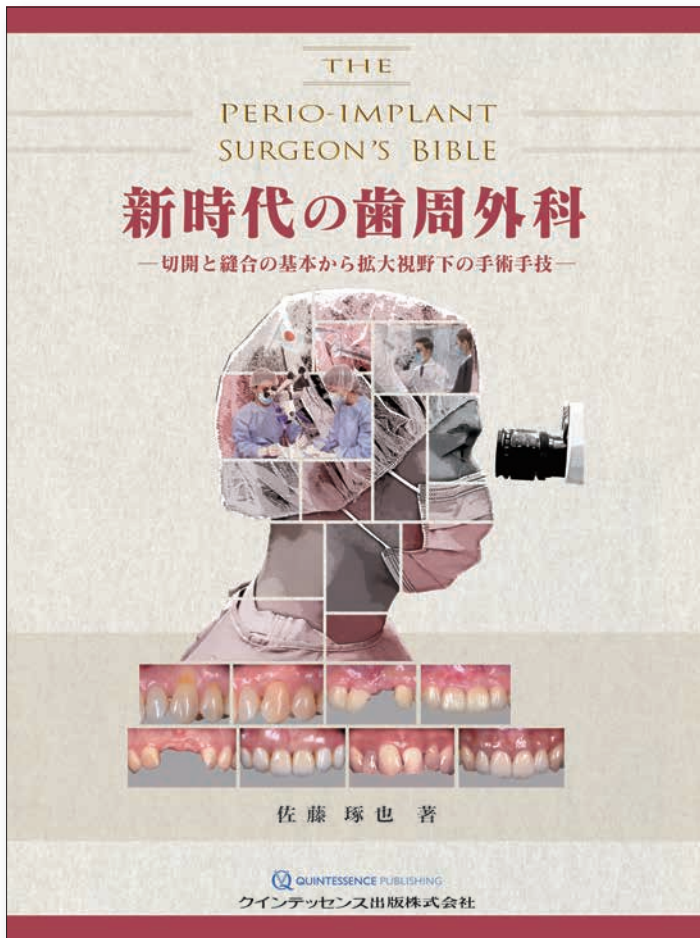


エビデンスベースで語る，侵襲の少ない歯周外科の手術手技を徹底解説！

新時代の歯周外科

— 切開と縫合の基本から拡大視野下の手術手技 —

拡大視野下で行う，minimally invasive surgeryの魅力がここに



著者：佐藤琢也

本書は，マイクロスコープを用いた拡大視野下で行う外科的侵襲の少ない切開・縫合のテクニックや術後の審美性を獲得できるノウハウについて，多数のイラストと写真にて解説。また，エビデンスベースでありながらも著者考案のテクニックも多数紹介している。



▲切開・縫合など，多くのイラストと写真を用いて解説。さらに理解が深まる！



序章

Periodontal microsurgeryとは？

まず、Periodontal microsurgeryとはなにかを、「医療原理の四原則」より述べ、microsurgeryにて治療を行った症例を提示し、その本質について迫る。



第1章

マイクロスコープと拡大鏡の応用

マイクロスコープの有用性や拡大鏡を併用して治療を行った症例を提示。さらには、マイクロスコープのポジショニングまで解説。



第2章

切開のセオリー

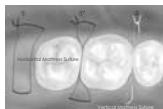
神経や血管の走行を考慮した切開線の決定方法やメスなどの器材選択まで解説。低侵襲を第一に考えた切開のセオリーに迫る。



第3章

理想的な縫合のために

「縫合」として小さな傷である。縫合糸・縫合針の選択方法やgeometric sutureの形成方法を詳しく解説し、さらなる低侵襲な歯周外科を目指す。



第4章

歯周外科手術の分類と目的

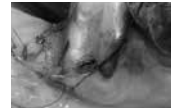
Dr. Henry H. Takei曰く「ペリオのsurgeryは必ず3つのどれかに分類されます」とのこと。Clinical Periodontal Surgical Treeにもとづいて歯周外科手術を行った症例を提示。



第5章

歯周ポケットの減少のためのmicrosurgery

本章では、組織付着療法、切除療法、再生療法についてそれぞれ詳述。リグロスを用いた症例では、それを用いる場合の切開線についても解説。



第6章

インプラント治療における切開と縫合

本章では、Clinical Implant Surgery Treeを提示。主に前歯部にインプラントを埋入した症例に焦点を当てて、その術式を解説。



第7章

歯肉退縮に対するアプローチ

歯周外科におけるlearning stage到達の1要素とも言える根面被覆術。歯肉退縮の分類を提示し、根面被覆術の基本術式や頻出テクニック、術式の選択方法を徹底解説。



第8章

狭小化する歯槽堤と歯間乳頭への対応

歯周病による炎症は消失すれど、吸収された歯槽骨は元の形には戻らない。本章では、歯間乳頭形成術と歯槽堤保存術、さらには軟組織移植による歯槽堤増大術を詳述する。



第9章

歯周形成外科と補綴治療とのかかわり

歯肉はデリケートな組織であり、決して術者の思うようには動いてくれない。本書の最後を飾る第9章では、歯周形成外科と補綴治療とのかかわりを解説し、さらには歯冠長延長術についても詳述する。



きりとり線

注文書

新時代の歯周外科 — 切開と縫合の基本から拡大視野下の手術手技 —

モリタ商品コード:208040708

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	
		支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。